

令和5（2023）年度 第2回かしわざきこども大学運営協議会 議事録

- * 日 時 令和5（2023）年10月19日（木） 午後6時30分～午後7時50分
- * 会 場 柏崎市役所 1階 多目的室
- * 出席委員 10名 佐藤幸治委員、片桐秀樹委員、前澤佳奈子委員、蓮池純夫委員、八木千代子委員、遠山みちる委員、松谷久美子委員、川本浩子委員、土田由紀委員、猪爪拓也委員
- * 欠席委員 なし
- * 事務局 8名 宮崎靖彦教育部長、【学校教育課】矢沢欣也課長、田中雅樹課長代理、平野克之副主幹、横田則子主査【保育課】笹川洋課長代理【商業観光課】土田洸希主事、入澤梨央主事

1 開会 司会：田中課長代理

2 挨拶 佐藤会長

秋晴れが続く今日この頃、各小・中学校では芸術の秋ということで文化祭や学習発表会が行われている。それぞれの園、学校において指導する保育士、教員は苦労もある。皆さんが鑑賞する際は、そういったことも考えながら楽しんでいただきたい。

第2回かしわざきこども大学運営協議会では、事務局から今年度の事業実施状況の報告と次年度の実施予定概要（案）の説明が行われる。今年度の事業実施状況については、年度の途中のため中間報告となる。また、次年度の実施予定概要（案）については、皆さんそれぞれの立場で活発な御意見をいただき、よりよい計画になるようにしていきたい。

3 議事 進行：佐藤会長

(1) 令和5（2023）年度 事業実施状況について

ア 自然体験コース 【事務局】 資料1

今年度は、ほぼ当初の予定どおり実施している。これまでに、実施予定の幼稚園・保育園29園のうち、27園が実施を終えた。ほかに、はまなす特別支援学校が10月6日に実施した。

イ キャリア教育コース 【事務局】 資料2

柏崎翔洋中等教育学校において8月29日に実施した。11月に瑞穂中学校と第二中学校、12月に東中学校での実施を予定している。参加した生徒に行ったアンケートでは、仕事に対する意識の変化、自分から動こうとする主体性、周りの生徒との協調性や社会性、そして独自のアイデアを出す創造性に関する意識の向上が見られた。教員、保護者サポーターの感想については、資料2に掲載のとおりである。

ウ ロボット工作コース 【事務局】 資料3

今年度は、大洲小学校、二田小学校、及び日吉小学校の計3校で「ロボット工作クラブ」を実施している。新潟工科大学の学生が訪問し、児童は楽しくロボット製作に励んでいる。

「ロボット工作教室」は、令和6（2024）年2月17日（土）に市民プラザで実施予定である。

エ 博物館事業 「柏崎縦断・石油と水道めぐり」 【事務局】 当日配付資料①・②

山田工業株式会社が日本石油創業者の内藤久寛^{ひさひろ}の生家の修繕を施し、4月から一般公開を行っている。その折に、山田工業株式会社から柏崎市に、子どもたちの歴史探求心向上に役立ててもらうことを目的として御寄附をいただき、かしわざき子ども育成基金へ積立てた。

その寄附金を活用し、今年度、柏崎市立博物館が主管で、「柏崎縦断・石油と水道めぐり」を実施する予定である。子ども育成基金を活用して行うことから、かしわざきこども大学の事業の一つと位置付けている。

－質疑・応答－

【委員】 博物館の事業は、既存のかしわざきこども大学のどこかのコースに組み入れるのかそれとも新規事業として位置付けるのか。

【事務局】 既存のコースに組み入れるのではなく、かしわざきこども大学の新規事業として位置づける。

【委員】 今年度限りなのか、それとも来年度以降も継続するのか。

【事務局】 今後5年間程度は継続して、歴史や文化を学ぶ事業を実施していく考えである。

【事務局】 今年度は、博物館が行っている「子ども探検教室」の一つとして、「柏崎縦断・石油と水道めぐり」を位置付けた。来年度以降は、新しい枠組みの中で実施していきたいと考えている。

(2) 令和6（2024）年度 実施予定事業概要（案）について…資料4

ア 自然体験コース 【事務局】

近年の参加人数に基づきプログラム負担金を24,000円減の264,000円、バスの借上げ料については今年度の実績に基づき900,000円とした。

第1回運営協議会の中で、この自然体験コースにおいて、バスを所有している園では、それぞれのバスでプログラムの実施場所まで送迎をしているが、そのことで保護者に負担が生じていないかなどの御質問いただいたことを受け、保育課でアンケート調査を行った。

ア－（1）アンケート結果について 【事務局】 …当日配付資料③

設問1「プログラム体験料金の差額以外に保護者に負担を求めているものがあるか」との問いには、大多数の園が「差額以外の負担はなし」と回答、一方で、「差額のほか、園バス利用料金の負担を求めている。」という回答が1園あった。

設問2「バスを所有していない園を対象として借上料を補助していることについて、バスを所有している園は補助を受けられず、不公平感があるのではないかと意見があったことについて園の考えはどうか」に対しては、「何らかの補助が必要」と回答した園と「不公平感を感じない」と回答した園がおよそ半数ずつという結果だった。補助の具体的な内容については、設問2－1に記載のとおりである。

設問3、設問3－1で、グローバル社会に向けての各園での取組について回答いただいた。外部講師による英語指導や、オンラインでの海外交流事業を実施しているという園もある。

－質疑・応答－

【委員】 園バスがないところは、市が契約した借上げバスを利用するため保護者負担はなく、園所有のバスを利用している場合も大半が保護者負担はないため、平等ということとでよいか。

【事務局】 そのとおりである。

イ キャリア教育コース 【以下、説明 事務局】 …資料 4

今年度同様、10クラスを対象に「いきいきゲーム」を実施予定である。これまで感染症対策の消毒液やフェイスシールドなどを購入することを想定し、消耗品費を20,000円計上していたが、購入が必要とならず執行実績が0円であったため、来年度の予算からは削除した。

ウ ものづくり工作教室（仮）

「ロボット工作コース」の名称を変更した。小学校でのクラブ活動の回数やロボットクラブを実施する学校の数が減ってきている状況や、大学側からの意向を踏まえ、来年度は小学校での「ロボット工作クラブ」への講師派遣を中止し、年一回の「ロボット工作教室（仮）」の実施のみと考えている。

これまでロボット工作を長年にわたり行ってきたが、将来的にはロボットに限らず広くものづくりに関する事業を展開することを想定し、名称を「ものづくり工作教室（仮）」と改めた。

エ 国際交流コース（仮）

柏崎市ではこれまで、中国の淮安区、峨眉山市との間で友好都市交流事業を、商業観光課の主管で実施してきた。令和2（2020）年度からは新型コロナウイルス感染症流行の影響により中断しているが、来年度には友好都市交流事業を再開する方向で進めている。友好都市交流事業の事後報告会等に、かしわざきこども大学として関わることを想定して、コースの立ち上げを考えた。会場借上げ料として80,000円の予算を見込んでいる。

オ エネルギーのまち、柏崎探求コース（仮）

「エネルギーのまち3.0」を目指して歩みを進める柏崎市の現状について、実際の再生可能エネルギー導入施設や原子力広報センターなどの見学を通して、子どもたちに学んでもらうことを目的としたコースである。柏崎市内には、原子力発電所、太陽光発電所等、エネルギーに関する施設が多く存在するが、それらを身近に学ぶ機会が乏しいため、新しい分野として取り入れたいと考えている。事業実施については環境課と調整中である。

カ 歴史・文化財探検コース（仮）

山田工業株式会社からの寄附を活用した歴史・文化に関する事業として立ち上げた。来年度の事業内容や主管課については、現在検討中である。バス借上げ料として20,000円の予算を見込んでいる。

キ こどもの笑顔創造プロジェクト

来年度も継続し、補助金上限額20万円×11団体として2,200,000円の予算を見込んでいる。

ク 学校教育活動推進事業

来年度も継続とし、今年度と同額の予算を計上した。

ケ かしわざきこども大学運営協議会

今年度と同様に年3回の開催とし、今年度と同額で予算を計上した。

－質疑・応答－

【委員】 「ものづくり工作教室（仮）」の講師の想定はあるのか。どういったものづくりを考えているのか。

【事務局】 令和7（2025）年度の事業に向けて今後検討する。何をするのかも含めて情報収集していきたい。

【委員】 市展で絵、切り絵、ちぎり絵、陶芸、書道などがある。そのような協会に講師を依頼してはどうか。

【委員】 講師は、柏崎地域の方限定か。市外から著名な講師を呼んではどうか。

【事務局】 市内の講師にこだわるわけではないが、柏崎市がものづくりのまちであるので、市のいろいろなものづくりを学ぶという意味では、市内の講師を中心に考えている。これまでロボット工作を継続して行ってきたが、柏崎にはいろいろなものづくりの産業があつて、地域に教えていただく技術があるということを広く子どもたちに知っていただきたい。そのことによって柏崎の市民プライドを持つことができ、さらには移住定住にも繋がると考えている。

令和6（2024）年度は、名称を「ものづくり工作教室（仮）」に変更し、令和7（2025）年度以降のことに関しては、いただいた御意見を参考にしながら検討を進めていきたい。来年度は、ものづくりの大学である新潟工科大学との連携で進めていきたいと考えている。

【委員】 いろいろなコースがあるが、農業をテーマにしたものを取り入れてはどうか。育てやすく小さなポットから始めることが出来るブルーベリーの栽培などをやってみてはどうか。

また、生涯スポーツを小学校で紹介する機会があつたが、子どもたちは非常に意欲的に取り組んでいた。生涯スポーツに触れるコースがあつてもよいと思う。

【委員】 「エネルギーのまち、柏崎探求コース（仮）」は、原子力発電所に特化するものではないのか。

【事務局】 そのとおりである。

【委員】 原子力発電や太陽光発電を初めとする再生可能エネルギーについて耳にする機会は多いが、実際身近に感じる機会があまりない。保護者も同様である。かしわざきこども大学として実施するのはよいと思う。

【事務局】 柏崎市内には、原子力発電所が立地している、風力、太陽光発電、その他のクリーンエネルギーの施設も多くある。そういったものを見る機会、触れる機会を環境課とタイアップしてやっていきたい。

【委員】 新規事業は、所属している園や学校に関係なく申し込めるのか。

【事務局】 検討中ではあるが、希望者が個人で申し込むことを想定している。

【委員】 学校として事業に参加するかどうかに影響されるよりも、個人として申し込めるようにしてほしい。

【委員】 「歴史・文化財探検コース（仮）」は対象を小・中学生としているのに対し、「エネルギーのまち、柏崎探求コース（仮）」で小学4～6年生を対象にしたのは、その学年になると学校の授業等で環境についての学習をする機会があるからなのか。内容的に難易度が高そうなので、中学生でもよいのではないか。

【事務局】 「歴史・文化財探検コース（仮）」については、対象年齢についても今後検討していく。「エネルギーのまち、柏崎探求コース（仮）」については、環境課が実施している学校単位の出前講座の対象が小学4～6年生なので、合わせる形で想定した。

「エネルギーのまち、柏崎探求コース（仮）」は個人を対象にした募集を想定しており、「歴史・文化財探検コース（仮）」はこれからの検討となる。「国際交流コース（仮）」は、友好都市に訪問するか、訪問団を出迎えるのが定まっていないため、訪問するなら個人単位、訪問団を受け入れるなら学校単位での受け入れになると想定し、商業観光課の担当者と情報交換している。

【委員】 博物館の探検教室に参加した子どもたちは、進学等でいったん市外に出て行っても、また柏崎に戻ってくる子が多いと聞いている。小さいときに柏崎の文化や歴史を学ぶ機会があるのとないのとでは大きく違うと考える。それを、かしわぎきこども大学の一つの事業としてやってもらえるのはありがたい。

また、柏崎がものづくりのまちであることを子どもが知る機会が少ない。柏崎ならではの、ものづくりを学ばせてほしい。

【委員】 「歴史・文化財探検コース（仮）」は講師が引率して回るのか。

【事務局】 今年度は博物館の学芸員が講師となる。来年度事業については、検討中である。「エネルギーのまち、柏崎探求コース（仮）」は、子どもたちに柏崎のよさを知ってもらい、子どもたちは一回外に出て行ったとしても再び柏崎に戻ってくることを目指している。

「国際交流コース（仮）」については、海外の文化を学ぶことで、柏崎のよさを知ってほしいとの思いがある。第1回の運営協議会の中で、国際交流、グローバル社会といった言葉が出ていたので、既存の柏崎市の事業に参画しながら今後の事業展開を考えていきたい。

【委員】 基金が減少している中であっても新しい事業の計画が聞けてありがたい。

令和7（2025）年度以降、音楽系のコースも検討してもらいたい。学校の課外活動でマーチングパレードに出ているが、学校での練習時間が減っていて子どもたちが困っている状況があった。そのため、地域からお願いして柏崎市吹奏楽団に指導を頼み、本番に向けて練習を重ねた。

近年、マーチングパレードに参加する学校が減っている。そうすると、小学校で吹奏楽に触れる経験がなく、中学校で吹奏楽部に入る生徒が減ってしまうことも予想される。小学生が学校外でマーチングバンドの指導を受けるなど、音楽に触れる機会があるとありがたい。

【委員】 「こどもの笑顔創造プロジェクト」について、提案書の時点で事業計画と予算について資料提供されているが、実施後は活動内容と補助金額のみの情報提供となっている。それぞれの団体で活動内容が違うこともあり、限られた財源の中で補助金がどのように使われているのかを知りたい。補助金の限度額を300,000円から200,000円に減額したことによって、活動内容が縮小されたのかなども知りたい。

【事務局】 各団体からは実績報告を提出していただいているので、資料の提供の仕方については検討したい。

【事務局】 第1回の運営協議会で、前年度の決算状況についてお知らせすることはできる。資料を閲覧いただくことは出来ると思うが、資料の提供の仕方については検討させていただく。こういった情報が知りたいのか御提案いただければありがたい。

【委員】 基金がなくなったときに、各団体では事業をやめることにするのか等、どのように考えているのか知りたい。

【事務局】 事業主体が、地域団体や学校と地域との連合体である。この補助金があるから応募するという団体はいないと考える。この事業をやるために、活用出来る補助金があるか、補助金があれば子どもたちへの付加価値を高めることが出来ると考えられた上で、提案書の提出をいただいているものと考えているので、補助金が無くなったなら事業をやめるのではなく、事業を縮小してでも事業継続するための方法を考える、または他の団体からの資金援助や他の補助金の活用を模索するものと考えている。

4 その他 【事務局】

(1) かしわざき子ども育成基金 収支報告 …資料5

資料5を基に説明。

(2) 令和4（2022）年度 かしわざきこども大学実施報告書（案）の意見交換

実施報告書は、かしわざきこども大学事業を実施するにあたり協力いただいた関係者、御寄附いただいた方などに配付している。

御意見がある場合には、来週中までに事務局までお知らせいただきたい。

5 連絡事項

(1) 今後のスケジュールについて

ア 第3回運営協議会…3月上旬を予定（令和5（2023）年度実施報告）

6 閉会 宮崎教育部長

令和5（2023）年度事業の進捗状況を報告し、御確認いただいた。それぞれ目的に合わせた事業の展開がなされている。年度末まで、滞ることなく実施を進めていきたい。来年度の事業概要素案についてもたくさんの御意見をいただいた。今後の検討材料にさせていただきたい。企業等から多くの寄附をいただき、深く感謝している。この御寄附を有効に活用するために、かしわざきこども大学が目指している「子どもたちの生きる力を育む」「豊かな感性を育む」事業に生かしていきたい。今後とも貴重な御意見をいただきたい。